

広報委員と研修委員に新しい仲間が増えました♪



丸光(まるみつ)広報委員



小山(こやま)研修委員



栞田(くわだ)研修委員



真多(さなだ)研修委員

3 ページには各委員の
ご紹介ページを掲載しています！
ぜひご覧ください♪



本会非公式フクロウのだいふく大福ちゃん
自立の木で暮らしながら、これから手帳を
広める旅をしています。

CONTENTS

- 巻頭言～新役員のご紹介～ P02
- 本会 NEW 委員のご紹介 P03
- 活動報告 広島市清和・日浦地域包括支援センター P04
- 学びのページ 福山市障がい者総合支援協議会 P05 ～ P06
- 私のまわりの輝きさん 倅せこいこいサロン 平尾 美鈴さん P07 ～ P08
- 研修報告「職員研修」一般社団法人地域包括支援センターみよし P09



広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会

監事 竹田 勝也（竹原市社会福祉協議会事務局長（竹原市地域包括支援センター運営責任者））

この度、広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会の監事に選任いただきました竹田勝也です。もとより微力ではございますが、小山会長をはじめとする役員の皆様や会員の皆様と力を合わせ、会の運営に努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、早いもので令和3年度も下半期となりました。昨年度と同様、新型コロナウイルスが猛威を振るい、緊急事態宣言が繰り返され、感染症の完全終息への出口がなかなか見通せない状況になっているように感じます。

地域では、住民が主体的に開催しているふれあいサロンや介護予防体操を行う自主グループの活動など、身近に集まる活動の自粛が続き、活動再開を待ち望む声がたくさん聞こえてきました。また、地域のボランティアさんを中心に、手作りマスクを一人暮らし高齢者に配布する活動を行い、声かけや見守りを行うなど、集まらない中でつながりを保とうとする活動が生まれるなど、集まらない状況下でも、住民同士で支えあおうとする意識の高さを感じることができました。

このような住民主体の取り組みを大切にして、地域包括支援センターや在宅介護支援センター、社会福祉協議会などの関係機関がしっかりと関わり、地域住民と専門職が顔の見える関係になることが、地域共生社会の実現に向けた大きな基盤になるのではないかと思います。

様々な行事が中止される中、竹原市地域包括支援センターが毎年開催している認知症講演会は、企画の段階で開催が危ぶまれていましたが、「認知症と共に生きる～知るそして学び合う～」というテーマで県立広島大学の西田先生の講演内容を録画して、竹原市のケーブルテレビで放映し、認知症啓発に取り組みました。

現在、竹原市では重層的支援体制整備事業の準備事業が開始され、地域包括支援センター事業を受託している竹原市社会福祉協議会が事業を受託し、3年後の本格実施に向け活動しています。

この事業は、高齢・障害・子育て・困窮といった、属性・世代を問わない相談・地域づくりの実施体制を目指すものですが、これまで各分野における実践の歴史が土台となるものだと感じています。

高齢者分野においては、地域包括ケアの推進を中心的に担ってきた地域包括支援センターや在宅介護支援センターの役割が益々重要になります。

県内の地域包括支援センター及び在宅介護支援センターが持てる力をしっかりと発揮し、地域共生社会の実現に寄与できるよう、協議会一丸となって取り組んでいきましょう。

今年度、新たに広報委員1名・研修委員3名の方が仲間入りしました♪



丸光 (まるみつ)
広報委員

今年度広報委員に就任いたしました、竹原市在宅介護支援センターゆさかの丸光です。在宅介護支援センターの相談員になって18年目になります。これまで中学校区というエリア内の相談業務、地域のサロンや行事のお手伝いをしたりと地域の中で仕事をしてきました。

この度広報委員として、県内の地域包括・在宅介護支援センターの活動を皆さんにお知らせしていく事に携わることになり、初めての環境に飛び込んだ新鮮な気持ちでいます。各包括・在宅介護支援センターの活動や取り組みを皆さんに発信して、次号を楽しみにしてもらえ、そんな広報誌ができるようにがんばりたいと思っています。



栗田 (くわだ)
研修委員

今年度から広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会の研修委員に就任致しました福山市地域包括支援センター野上の栗田です。

これまでの研修受講者側から運営側となり戸惑うばかりですが、委員長をはじめ先輩委員方や事務局の方からも暖かく迎えていただき、連携良くアットホームな雰囲気の中で、一生懸命経験を積ませて頂いています。

県下の地域包括支援センターや在宅介護支援センターの皆様へ、地域活動に有益な知識や情報の提供、また必要なスキル等の習得に役立つ研修の開催に向けて微力ながら早くお役に立てることができるよう尽力いたします。今後とも宜しくお願い申し上げます。



小山 (こやま)
研修委員

この度、地域包括・在宅介護支援センター協議会の研修委員に就任いたしました、福山市地域包括支援センター南本庄の小山と申します。

この2年間、コロナ禍での度重なる自粛や活動・行動制限の中、以前とは全く異なる生活様式や、リモートでの会議や研修等で戸惑いも多く、特に機械音痴の私にとっては、日々パソコンとの格闘でした。最近はやっと人並みになってきたかと思えます。

会話がリモートになったことで、移動時間が無くなり、色々な地域の方との会話が簡単になってきた反面、お互いの表情が見えにくい部分や、会話が事務的になり本音が見えない部分もあるかと思えます。その中で、人との繋がり大切さを痛感するとともに、多職種との連携の必要性、また共生社会の重要性を感じているところです。

今年度、研修委員ということでかなり戸惑いもありましたが、コロナ禍だから出来ないのではなく、コロナ禍だからこそできることを皆さんとともに勉強し、考えていければと思っています。よろしくお願い致します。



真多 (さなだ)
研修委員

令和3年度より当協議会の研修委員に着任いたしました。偉大なる先輩方と一緒に仕事をさせていただくだけでも光栄ですが、着任して半年で既に多くの学びを得ております。これまでの研修へ参加する立場から企画・開催する立場となり、打ち合わせ準備、講師の方との交渉術、リモート配信当日の立ち回りのお姿等、感銘を受けることばかりです。

日頃は広島市安佐北区にあります白木地域包括支援センターに所属しております。コロナ禍によりオンライン研修が主流となりつつありますが、当協議会を通じて横の繋がりを大切に、会員の皆様と共に高め合うことができれば幸いです。

広島市清和・日浦地域包括支援センター

清和・日浦地域包括支援センターが担当している圏域は、広島市安佐北区に位置し太田川中流域を中心に山や緑に囲まれた自然豊かな地域で5小学校区、7地区社協区を担当しています。以前は8小学校ありましたが3校が統廃合となりました。

広島市の地域包括支援センターの中では2番目に大きなエリアを担当しており、北広島町・安芸太田町と隣接しています。

また地域においては、地元の地域のほか、山を切り開いて造成した古い団地が点在しており、団地を擁する地域は「前期高齢者」が多く、地元の地域は「後期高齢者」が多いのが特徴です。

圏域の高齢化率は「43.7%」で広島市内では高い数値となっています。特に山間部に位置する地区では高齢化率も60%を超え、地域を支える若い世代が少なく、限界集落となっている地域では、役員を兼任されており、様々な負担が大きくなっていることや次世代につなぐことが難しいことなど課題も多くなっています。医療機関のない地区、商店がない地区もあり、自動車での移動が必要不可欠な状況となっています。高齢化に伴い免許返納を行うにも、交通機関が脆弱なことや自宅からバス停までの距離が遠く、自動車の利用が必要不可欠な状況です。高齢化率の上昇に伴い、交通課題に対する地域の声も上がってきています。

清和・日浦圏域の特徴として、昔からの近所づきあいや助け合いが残っており、隣の人とカーテン開け閉めでの見守りや買物に行った際には「何か買ってくるものある〜?」などの見守りを行っている地域でもあります。地域の既存の見守り体制を活かしたネットワークの構築や、地域の役員の負担を軽減する方法を模索しています。

太田川流域は、過去に何度も太田川の氾濫や太田川の支流などの災害が発生しており、令和3年8月においても、長雨による河川の氾濫が発生し、様々な箇所が通行止めとなりました。

今後、清和日浦地域包括支援センターとして今後も起こりうる災害にどう向き合っていくか、様々な課題を「地域ケア会議」など開催し現取り組んでいきたいと思ひます。

これからの地域包括支援センターの運営としては、山間部ならではの課題でもある地域の担い手の発掘や住民主体型の生活支援、交通課題等、多岐にわたる問題の解決に向けて、自治会や地区社協、民生児童委員、老人クラブ等と連携し、住み慣れた地域で住み続けることのできる地域を目指して、地域包括支援センターの職員が一丸となって取り組んでいきたいと考えています。



福山市社会福祉協議会

常務理事 兼 事務局長 小野 裕之

ご存じですか。福山市障がい者総合支援協議会

「障がいのある人が、地域で普通に暮らせる街づくり」を目指しています。

“障がい者総合支援協議会”って何？

福山市障がい者総合支援協議会は、障がいのある人の地域生活における課題等を共有し、支援体制の整備と社会資源の改善・開発を行う組織で、その取り組みは全国的に進められています。

2007年に“福山市障害者自立支援協議会”が設置され、行政の直営で運営されてきましたが、2013年4月からは、福山市社会福祉協議会（社協）が事務局を担当しています。

2015年4月には名称を「福山市障がい者総合支援協議会」（協議会）に変更しました。

5つの専門部会で組織されています

協議会は、全体をまとめる運営会議を中心に、「相談支援部会」「発達支援部会」「就労支援部会」「地域生活支援部会」「権利擁護支援部会」の5つの専門部会で構成されています。

部会ごとのテーマに沿った長期目標・短期目標を定めて、地域の課題解決に向けて取り組みを進めています。

専門部会の取り組みを紹介します

運営会議

協議会の総合調整・企画・立案・専門部会への指導・助言などを行います。

5つの専門部会の活動を軸に、福山市の障がい者福祉の現状・課題の共有化を図っています。

それぞれの部会から抽出された全市的な課題については、部会の横断的な連携により取り組みを推進していきます。

相談支援部会

相談支援体制における課題の共有、整備、連携強化を行います。

また、相談支援専門員のスキルアップを目的として、研修会等を開催しています。

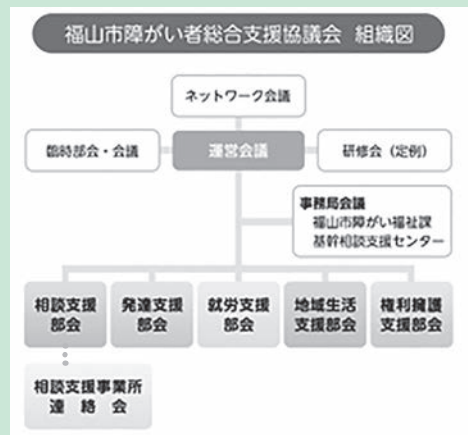
・地域と顔の見える関係づくりー相談支援事業所連絡会からブロック会議の立ちあげー

研修・意見交換・事例検討を行う「相談支援事業所連絡会」から、地域の生活支援拠点を基盤にした「ブロック会議」を立ち上げ、市内5ブロックの地域特性にあわせた活動とブロックによる相互連携と地域生活支援に向けた体制づくりをおこないます。

今後は、「地域生活支援拠点等事業」の整備に向けて、地域で安心して暮らすための体制づくりのための課題整理のための協議を進めていきます。

🏠 地域生活支援拠点等とは…

障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた、居宅生活支援のための機能をもつ場所や体制のことです。居宅生活支援のための主な機能は、①相談（24時間対応）、②緊急時の受け入れ・対応、③体験の機会・場、④専門的人材の確保・養成、⑤地域の体制づくりの5つを柱としています。



発達支援部会

障がい児にかかわる医療，教育，保健，福祉，保育関係者等が，長期・短期的に解決すべき地域課題を出し合い，研修の実施や，意見・情報交換による共通認識を行い，ライフステージごとの関係機関連携や支援体制を充実させた，システム作りをめざした取り組みを行っています。

就労支援部会

障がいのある方それぞれの「自分らしい働き方」の実現のため，就労系福祉サービスや一般就労との連携を深め，切れ目のない就労支援をめざし，障がい者の「働く」について考えていきます。

地域生活支援部会

「誰もが，自分らしく安心して暮らし，社会へ貢献できる地域づくり」を進めるための支援体制構築に向けた具体的な取り組みを進めています。

・「障がい者の生活を支える」様々な情報を集めた冊子を作成しています。

基本的な障がいの理解・特性に応じた必要な配慮を考えるための冊子や市内の様々な社会資源や相談窓口、子どもの発達や自助グループの紹介、さらには居住支援（住居確保・移行）の手順を紹介した冊子を作成しています。

協議会ホームページで公開していますのでご覧ください。 <https://www.f-shakyo.net/>



権利擁護支援部会

障がい者の権利擁護を推進するため，障がい者虐待防止・障がい者差別の解消・成年後見制度の利用促進等について，取り組みを進めています。

「障がいを理解することから始める。」 障がい者の災害時避難行動要支援者の取り組み

「避難行動要支援者」への取り組みが全国的に行われていますが、「障がい者」と地域の相談窓口である「民生委員」とが災害時の避難行動について情報交換する機会は市内では、これまで残念ながら設けられていませんでした。

そこで、「障がいの理解」や「障がいの特性に応じた必要な配慮」について、市連民の部会研修に障がい特性ごとの当事者を講師として派遣し、研修を行いました。

今後は、各障がい者当事者団体から参加を募り、同じ生活圏域に居住する障がい当事者と担当民生委員の「顔の見える関係づくり」を構築し、「災害時避難」をテーマにした「懇談会」の実施に向けた取り組みを進めていきます。

身近な地域で、自身のハンディキャップをカミングアウトする心情を理解・配慮し、災害時の命を守る取り組みと、地域共生社会の構築を進めて参ります。

「懇談会」を推進する体制が整えば、市内の地域包括支援センターの参加についてもお願いすることを考えておりますのでよろしくお願いいたします。



明るくて元気はつらつな平尾さんは、12年余りのデイホームでの活動を活かして、地域の『倅せこいこいサロン』を盛り上げてくれています。

サロンでは企画や制作活動の準備はもちろん、平尾さんの書く素敵な『字』に参加者の方も私たちが心癒されます。サロンの会場や手作りおやつにちょっと添えてあるひと言に自然と笑みがこぼれるんです。

サロン以外でも地域のお年寄りを気づかって下さったり、気になる方がいると「話しに行っておいて」と情報提供をして下さったり…在宅介護支援センターと一緒に地域の方を見守ってくれている、地域の頼れるお姉さんです。

竹原市在宅介護支援センターゆさか 丸光 陽子



第8回の 輝きさんは



小地域サロン倅せ こいこいサロン

平尾 美鈴さん

私は、竹原市西野町で『倅せこいこいサロン』をしています。

『倅せこいこいサロン』の始まりは、一人暮らしのお宅の片隅で始めたデイホームです。西野町だけでなく、竹原市内からも地域の皆さんにお越しいただき、みなさんと一緒に過ごしました。デイホームでの一日は、「おはよう」から始まり、「今日の体調はどうですか?」と健康観察をして体操やゲーム・お茶をしてひと息…いろんな話で盛り上がりました。お昼は地域のボランティアさんと一緒に作りました。メニューを考える際には、新鮮な旬の野菜・魚を使う事を心がけました。利用者の皆さんから、“ご馳走ね。とっても美味しいよ。”と微笑んでもらえた時には、本当に幸せでした。未熟な私がスタッフとなり、皆さんから多くを学び、ボランティアの皆さんに助けられ12年余り続けられました。

この経験を活かして、今は小地域サロンとして自治体単位で『倅せこいこいサロン』を地元のスタッフの皆さんと頑張っています。コロナ禍でお休みも続きましたが、今後は来い来いと受け身ではなく、皆さんが積極的に「行ってみよう」と参加してくれたらいいなあという思いも込め、来る来ると響きも可愛い『倅せくるくるサロン』にしたいと思っています。

また、サロン以外にも地域での活動を行っています。1つめは、社協のかけはしの活動です。利用者さんと、毎週火曜日に銀行で待ち合わせをして、ご自宅に伺い、日頃の様子を伺っています。利用者さんが毎週火曜日を楽しみにして下さっており、会うたびに元気をもらっています。

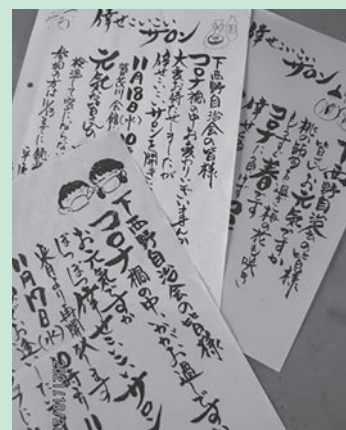
2つめは、子供支援のファミリーサポートです。地域の男の子を小学校に迎えに行き、児童クラブまで送迎をしています。始めた当初は、1年生だった男の子も、今では5年生になりました。成長を見ていると、我が子のように可愛いものです。

3つめは、地元の老人保健施設での入浴介助です。知った方も沢山いらっしやり、喜んで下さる顔にほっと癒されます。

最後に、地域交流センターでの健康料理教室です。料理好きな事もあり、和気あいあいと楽しい時間を過ごしています。

色々な活動や、沢山の方々との出逢いを通じて、私自身成長できていると感じています。これからも皆さんが笑顔になれるお手伝いをしていきたいと思っています。

皆さんの笑顔こそが、私の元気の源です。



心を含めて手書きのサロン案内

私のまわりの輝きさん



敬老の日には手作りのプレゼントでお祝いをします



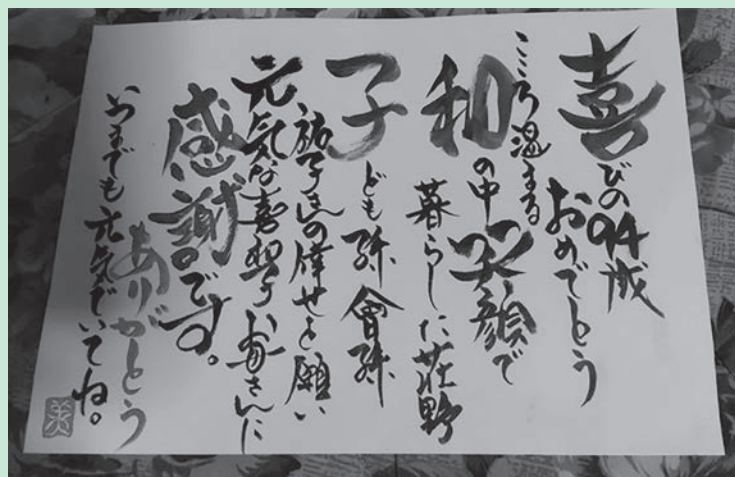
ゴミになるはずだった廃材も
素敵な看板になりました



皆さんと紙を丸めるところから
取り組んだロールピクチャー



デイホームではボランティアの方と手作り料理で
おもてなしました



お誕生日にはお名前メッセージでお祝いします

職員研修～ひきこもり支援について考える～

今回は、研修を受講した参加者の声として、一般社団法人地域包括支援センターみよしの森田はづきさんから研修の報告をしていただきました。

「令和3年度広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会主催の職員研修～ひきこもり支援について考える～」を受講して

9月17日に行われた令和3年度広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会主催の職員研修『～ひきこもり支援について考える～』を受講しました。講師はNPO 法人青少年交流・自立・支援センター CROSS 理事長 齋藤圭子さんでした。

まず、ひきこもりとは「様々な要因の結果として、社会参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態のことです。調査によると全国で40歳から61歳で61万3千人の方がひきこもっており、そのうち約70%が10～30代の若者と言われています。実際、CROSS が関わってるケースのうち約70%が10～30代で男性が圧倒的に多いとのことでした。

ひきこもり状態になる要因やその状態が続く要因は様々ですが、育成歴や親やきょうだいとの関係性、病気や障害、経済的問題、環境などが大きく影響していることも知りました。特に本人の訴えとして多いのは「小さいころ親に褒めてもらえなかった。」「他のきょうだいばかり可愛がられてきた。」というものです。また、これまでの生活のなかで人と関わることでイヤな経験をしてきた方が多く、精神疾患を患っている方も多いそうです。

また、最近よく耳にする8050問題についても話がありました。8050問題とは「80代の親が収入のない50代の子どもの生活を支え、行き詰っている世帯のこと」です。その背景には長期、高齢化しているひきこもり状態にある人とその家族の孤立があります。親は収入がない子どもの存在を世間に知られたくない、社会に迷惑をかけてはいけないとその存在を隠し、親が病気になったり、亡くなってから子どもの存在がわかることも多くあるとのことでした。

ひきこもり支援の有効策として、次のようなことが紹介されました。1つめは「病院での治療」です。先ほどにもあったように、ひきこもり状態の方の中には精神疾患を患っている方も多いため、医療につなげることが有効なケースも多くあります。2つめは「自分に自信をもつ（＝自己肯定感の確立）」ということです。CROSS では安心して出かけられる場所として『フリースペースくろす』を運営しており、「家から出ることができた」「家族以外の人と一緒に過ごせた」ことが自信につながっています。3つめは「家族の変化」です。親との会話ができている方（＝親との関係がよい方）は回復が早いそうです。普段の何気ないあいさつや会話をまず親からすることも有効です。

今回の研修会に参加して、日々の仕事の中で活かしていける内容がたくさんありました。高齢者の方はもちろんのこと、その家族にも視点を向けていきたいと思います。

地域包括支援センターみよし 森田 はづき

編集後記

新型コロナ後の地域の行事や人のつながりは、また元に戻るのでしょうか。時間がかかっても、皆で少しずつ頑張らないといけませんね。……………荒木 和美 (広報委員長)

『ハイテクニクになればなるほど、ハイタッチでなければならぬ。Aトフラー』
新型コロナの影響により様々な場面でデジタル化が進みましたが、人と人のつながりはアナログが大切だと気付かされる今日この頃です。… 永見 悠騎 (広報副委員長)

ご近所の方と久しぶりの立ち話。体調のこと、コロナのこと、引きこもり生活のことなど。他愛もないおしゃべりに元気をもらいました。……………藤井 紀子

このご時世なので、余計に、秋の気配や冬の匂いを感じられるころのゆとりを持っておきたいなあとおもっています。……………高森 裕美

高齢者宅の柿の木に爪痕があるのを見て怖くなったことがあります。地域では熊対策で柿の木を切るお宅が多いみたいです。何にしても安心して過ごしたいものです。

……………長谷川 忠弘

広報委員会という新しい世界に飛び込んで、委員の方との新しい出逢いや初めての Zoom 会議。皆さんの目にとまる広報ができたかなあと発行が楽しみです。

……………丸光 陽子

今年度から事務局を担当させていただきます谷村です。よろしくお願いいたします。
みなさまからの広報誌のご感想をお待ちしております!……………事務局



「これから手帳」の説明会のご希望がありましたら、事務局までお問合せください♪



広島県地域包括
在宅介護支援センター協議会
ホームページ

<https://shienkyou.jp/contents/index.php>



広島県地域包括 在宅介護支援センター協議会

検索



QRコードを読みとってください